

あとがき

東京学芸大学では文部科学省から現代教育 GP「持続可能な社会づくりのための環境学習 — 多摩川バイオリージョンにおけるエコミュージアムの展開」の採択を 2005 年から 4 年計画で受けて（代表 樋口利彦教授、環境教育実践施設）、学生たちや市民の皆様と環境教育活動を多摩川流域で展開している。この一環として、民族植物学研究室では、卒業生・在校生とともに、「植物と人々の博物館」を奥多摩地域のエコミュージアムのコア博物館として構想し、2006 年 5 月からその準備室を山梨県小菅村橋立に置いて、環境学習プロジェクトの拠点作りを始めた。植物と人々の暮らしに関心をもつ多くの方が企画段階から参加してくださるととてもうれしい。このため、本誌は民族植物学研究室と植物と人々の博物館による発行とすることにし、今後、一層の充実を期することにした。

とうきゅう環境浄化財団の研究助成を 2005 年から 2006 年の 2 年計画でいただき、「多摩川上流・鶴川流域の生物文化多様性の保全」に関する調査研究を井上典昭、井村礼恵、石川裕子の皆さん、立教大学の増田昭子先生とともに実施した。研究成果は学会誌などに投稿するが、本誌にも報告の一部を掲載したい。私たちが今、何を研究しているのかを海外の人々にも知っていただくために、第 2 号からは少なくとも英文表題をつけることにした。第 1 号は既に海外の民族植物研究者たちに配布してある。次の第 3 号からは『民族植物学ノート』編集委員会による編集作業をお願いし、さらにより雑誌になるように努めたい。

木俣美樹男（ケント大学、カンタベリーの丘にて、2006 年 3 月）

民族植物学ノート 第 2 号 (2007) ISSN 1880-3881

発行日： 2007 年 9 月 12 日

発行所： 東京学芸大学環境教育実践施設 民族植物学研究室
植物と人々の博物館（東京学芸大学現代教育 GP プロジェクト）

発行責任者：木俣美樹男

住所： 〒184-8501 小金井市貫井北町 4-1-1
東京学芸大学 環境教育実践施設

Ethnobotanical Notes No.2 (2007) ISSN 1880-3881

ed. by M. Kimata

Laboratory of Ethnobotany and Plants & People Museum,
Field Studies Institute for Environmental Education,
Tokyo Gakugei University,
Koganei, Tokyo 184-8501, Japan